



《金沢龍馬會 新年会》

日時：1月24日（金）18:00～20:30
場所：「招龍亭」（金沢市西念3丁目5-35）

龍馬會の新年会が招龍亭で開催されました。

参加者：山田/不破/中田/佐藤/大坪/吉田/紐野/中城/朝日/周藤/小幡/加藤/堀野/松下/森川/工藤/会友柴田 計17名でした。

山田会長の挨拶のあと中田副会長が「外資系企業あるある」という題目で講演しました。

- ・今回の講演は4回目であること。
- ・自分は外資のデュポン社日本法人に勤務しており化学部門の営業をしていた。
- ・デュポンは、火薬製造から始まり、軍隊関連物資（船舶、列車車両、火薬、靴、テント、軍服、毛布など）を生産し会社が大きくなった。仕事上安全に気を遣う会社であった。
- ・デュポン本社からみると日本人は現地雇用で何を考えているか分かりにくく勤勉だが賢い人間もいるので目を離さないようにせねばならないと明示されていた。
- ・日本には農薬関係の製材有名メーカーがあるがその原体（原料）生産メーカーはほぼ外資であり首根っこを押さえられている。
- ・そして当時デュポン日本法人内部で使われていた用語（サマリー、コミットメント、エビデンス、コンセンサス、ジャストアイデア、ペンディング、アウトソース、アサイン、アライアンス、コンプライアンス、スキーム、フィードバック、プロパーなど）の解説があった。

輪島の中浦屋中浦社長より礼状をいただいたので披露しました。そして丸柚餅子2玉をいただいたので人数分に切ってもらい参加者全員で食しました。美味でした、ありがとうございました。

引き続き懇親会を行いました。紐野県議が乾杯の音頭をとられました。

しばらくして会友の柴田氏の挨拶、その後加藤/大坪/工藤/山田会長/中田副会長より報告や発言がありました。その後ビンゴ大会を行い、参加者が持ち寄った品物を賞品としました。最後に不破県議が中締め挨拶をされ散会となりました。

ミニイベント 《日展鑑賞会：県立美術館》

2月11日ミニイベントとして石川県立美術館にて「第8回日展石川展」を鑑賞しました。

参加者は佐藤/吉田/堀野/松下/会友窪田 及び講師の中田聰山老師と合わせ6名でした。

一昨年応募の作品で、全て石川県作家の入選作が展示されておりました。

書は17点、篆刻は中田老師の1点のみでした。

作品名は「身心一如」です。篆刻作品制作の工程を説明されました。更に落款の押し方の常識も披露されました。そして日展では書の構成が「漢文」「かな」「漢字かな混合」「篆刻」から成り立っている事も判りました。

その後、自由鑑賞となり「日本画」「洋画」「彫刻」「工芸美術」のコーナーを自由に鑑賞し散会となりました。



《金沢龍馬會 総会》

日時：6月28日（土）

場所：桜はなび

時間：16:00～

ミニ講演会：16:30～

講演者：蛭子政喜 前会長

懇親会：17:00～19:00

参加費：¥4千円（酒・飲料持込条件）

（年会費¥3千円もお願いします）

《北陸三県龍馬會交流会》

日時：9月27日（土）17:00～20:00

場所：「招龍亭」（金沢市西念3丁目5-35）

講演：未定、

演題：未定（予定）

会費：7.5千円

なお同日午後は卯辰山周辺でエクスカージョンを行います

《第37回龍馬 world 東アジア大会》

～バンコク&高知 同時開催～

日時：11月22日（土曜日）

バンコク開催：大会・親睦会共に未定

高知開催：高知県立県民文化ホールオレンジ

（高知市本町4丁目3-30）ほか

お問い合わせ：（公社）高知市観光協会

Tel 088-823-4016

詳細は、下記（一社）全国龍馬社中ホームページをご覧ください。

<https://zenkoku-ryoma-shachu.com/category/ryoma-world/>

日時：11月22日（土）県民文化ホールオレンジ

12:30 受付開始

13:30 開会

14:40 基調講演

16:00 パネルディスカッション

18:15 交流会

11月22日（日）/23日（祝）

エクスカージョン

《志士たちが活躍した長崎とは ②4》

板垣退助

土佐藩の重役として後藤象二郎や佐々木高行は長崎を拠点にしていたが板垣退助は慶応3年(1867)長崎を訪れたという記録がある。武器調達や情報収集が目的である。維新以降は自由民権運動の全国遊説で長崎にも行ったらしい。

「板垣死すとも、自由は死せず」との名言が残っている。生涯に4回も命を狙われた。いわゆる国会開設に努力し自由党の創始者である。

民主主義の基礎を築いたとの功績で昭和28年以降昭和48年まで発行の百円札肖像画として採用された。以前は髭が多い事が肖像画の条件であったが伊藤博文と合わせ名譽な事である。

天保8年(1837)今の高知市本町の生まれで生家は300石の上土の家であった。龍馬より2歳年下である。質実剛健が家風で食事も質素だった為貧乏を苦しめない根性が養われた。

土佐では上土と下土の対立が甚だしかったが、退助は身分にかかわらず交わった。後藤象二郎とは子供の時から一緒に遊んだ。二人は鏡川でよく泳いだり、耳に水が入り中耳炎を患い一生その影響が残った。

このハンデが社会改革に結びついたともいわれる。弱い者いじめはせず親分肌で身分を問わず有用の者を味方につけた。驚くことに土佐勤王党に名を連ね勤王家であった。

安政3年(1856)係争に加わり農村へ塾居を命じられる。吉田東洋から自塾に入るよう勧められるが断っている。自分で「孫氏」を熟読した。その後高知城下へ戻った。そして税務官を務めた。

文久元年(1861)江戸留守居役兼軍備御用を命じられ江戸に赴いた。そして山鹿流兵学を学んだ。高知では吉田東洋が暗殺されたが、それを肯定している。勤王の立場に立った。

山内容堂の前でも尊王攘夷を唱えた。容堂に随行し上洛するため品川を出港したが下田で容堂が勝海舟を招聘し坂本龍馬の脱藩を許す話し合いに同席している。

土佐へ戻ったが土佐勤王党への弾圧が始まりつつあった。退助も失脚。中岡慎太郎と意思を通じたが、慎太郎は長州へ脱藩した。退助は御馬廻組頭に復帰した。

武市半平太の審理に消極的に参加したが、そのせいもあり再び失脚した。半平太は切腹となった。

その後、薩摩藩と薩土倒幕の密約を交わす。独断で天狗党員を隠匿し薩摩藩へ身柄を渡す。戊辰戦争では東山道先方総督軍参謀となり会津攻略で活躍した。

維新後4年には木戸孝允、西郷隆盛、大隈重信と共に新政府の参議となった。明治6年に朝鮮出兵を巡り下野した。

翌年には議会制政治を目指し愛国公党を結成した。明治8年には参議に復活するがすぐに下野する。

明治14年に「十年後帝国議会を開設する」という詔がでたので自由党を結成し党首として全国を遊説し自由民権運動を展開する。

翌年欧州を視察した。明治23年帝国議会が開設され立憲自由党結成、翌年自由党と改称され党総理となった。何回か内閣に参画している。

明治24年龍馬、中岡慎太郎、吉村虎太郎、武市半平太はともに正四位が追贈された。板垣は土佐藩の幹部であると同時に勤王側であった。

また龍馬の顕彰碑を建立した。板垣自身は伯爵となったが、「特権階級になるために倒幕をして維新を行ったわけでない」と何度も叙爵を辞退したがその都度説得され断り切れなかった。その代わりこの栄誉は一代限りと決めた。

維新以降は富国強兵・国民皆兵、国会開設、不平等条約撤廃に努力した。大正8年享年83才であった。現在6か所に彼の像がある。その他各地に関連石碑もある。



参照：ウキペディア、ChatGPT、他

●年会費納入のお願い

**令和7年4月から来年3月迄の年会費：
¥3,000-**

例会ご出席の折か次の口座まで送金下さい。

郵便局 口座No 00780-5-38627

口座名義 金沢龍馬会

振込手数料は龍馬会が負担。3千円のみです。

【編集後記】

皆さま、心の中に常に“龍馬の志し”を持ち、張り切ってまいりましょう。

会報も第43号が完成、漸く皆さまにお届けすることが出来ました。

***** 事務局*****

金沢龍馬会

会長：山田友一

事務局長：吉田信夫

080-5600-1113

jitianxinfu@hotmail.com

会報担当：中田俊郎 090-7806-2269

n-toshio@muj.biglobe.ne.jp

金沢龍馬会 公式ホームページ

<https://kanazawa-ryomakai.com>

金沢龍馬会 facebook

<https://www.facebook.com/kanazawa.ryomakai>

